角笛への吹き込み　- 復活と召集

﴾النفخ في الصور والبعث والحشر﴿

[日本語– Japanese – ياباني]

ムハンマド・イブラーヒーム・アッ＝トゥワイジュリー

翻訳 ： サイード佐藤

校閲 ： ファーティマ佐藤

2007 - 1428

islamhouse.com

﴿النفخ في الصور والبعث والحشر﴾

« باللغة اليابانية »

محمد بن إبراهيم التويجري

ترجمة: سعيد ساتو

مراجعة: فاطمة ساتو

2007 - 1428

角笛の吹き込み

●　ここでいう角笛とは、偉大かつ荘厳なるアッラーが末世において天使イスラーフィール（彼に平安あれ）に命じて吹かせるものを指します。その一吹き目は「衝撃の一吹き」であり、アッラーがそうお望みにならないもの以外の天地全てのものは、それによって打たれ気を失います。それから二吹き目を命じられますが、それが「復活の一吹き」なのです。

●　角笛が吹き鳴らされた時の被造物の状況：

1－至高のアッラーはこう仰られました：**それゆえ（彼ら頑迷な不信仰者たちから）離れよ。その日召集する者（イスラーフィール）が（彼らを彼らの）厭うところのものへと召集する。（彼らは）まるで散り散りのバッタのごとく、恐怖で目を伏せながら墓場から出てくる。召集する者の方へと急ぎ、不信仰者たちはこう言う：「これはなんとも厳しい日だ。」**（クルアーン 54：6－8）

2－至高のアッラーはこう仰られました：**そして角笛が吹き鳴らされ、アッラーがお望みになられるもの以外の天地の全てのものは気を失う。それからもう一吹きされると、彼らは立ち上がり眺め回す。**（クルアーン 39：68）

3－至高のアッラーはこう仰られました：**そしてその日角笛が吹き鳴らされ、アッラーがお望みになられるもの以外の天地全てのものは恐れおののく。そして全ての者は身をすくませ怯えながら、かれの御許へとまかり出る。**（クルアーン 27：87）

●　角笛への吹き込みの一吹き目と二吹き目の間隔：

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛への吹きこみの一吹き目と二吹き目との間隔は、40 である。”」（人々はアブー・フライラに）言いました：“アブー・フライラよ、40 日ということですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いや。”　（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 ヶ月ですか？”　（アブー・フライラは）言いました：：“いいえ。”　（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 年ですか？”　（アブー・フライラは）言いました：“いいえ。”（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[1]）

[1] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4935）、サヒーフ・ムスリム（2955）。文章はムスリムのもの。

● **審判の日はいつか？**

1－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛の主（イスラーフィール）の眼はそれを任された時から、玉座の方を眺めて準備している。彼は少しでも眼を逸らした際にご命令がかかるのを恐れているのだ。彼の眼は煌めく 2 つの惑星のようである。”」（アル＝ハーキムの伝承[2]）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“太陽の眼を見る日で最良のものは、金曜日である。アーダム（アダム）はその日創造され、その日に楽園に入れられ、その日そこから追放された。そして審判の日は金曜日以外には起こらない。”」（ムスリムの伝承[3]）

[2] 真正な伝承。ムスタドゥラク・アル＝ハーキム（8676）、アッ＝スィルスィラト・アッ＝サヒーハ（1078）参照。
[3] サヒーフ・ムスリム（854）。

復活と召集

● **しもべが通過する諸段階：**

その段階には 3 つあります。つまり①現世の段階、②天国と地獄の境界上にある段階、③天国、あるいは地獄の来世における永遠の段階です。アッラーはこれらの各々の段階に、特有の規定を設けられました。またアッラーは、人間を魂と肉体から構成されました。そして現在の諸規定を肉体とそれに付随する魂に定められ、天国と地獄の境界線上の諸規定を魂とそれに付随する肉体に対して定められ、また享楽あるいは懲罰という来世での諸規定を肉体と魂に均等に定められました。

● **復活とは**：角笛への二吹き目において、死人が蘇されることです。この時人々は靴も衣服も身につけておらず、割礼も受けていない状態で全世界への主へと復活します。また全てのしもべは、死んだ時そのままの状態で蘇されます。

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**そして角笛が吹き鳴らされると、彼らは墓から飛び出して彼らの主の御許へと急いでいく。（彼らは）言う：「ああ、私たちの破滅が悔やまれる。私たちを寝床から蘇らせたのは誰だ？」（天使たち、あるいは信仰者たちはこれに答えて言う：）「これこそは最も慈悲深いお方がお約束され、使徒たちがその真実を語っていたところのものだ」。**﴾（クルアーン 36：51－52）

2－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**それからあなた方は死ぬのだ。そして審判の日に蘇されるのである。**﴾（クルアーン 23：15－16）

● **復活の光景：**

アッラーが天から雨をお降らしになり、まるで地上に芽が生えるように人々が地下から湧き出て来ます。

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴿**そしてかれ（アッラー）こそはそのご慈悲をもって、よき知らせ（慈雨）をもたらす風を送られるお方。そして（その風は雨を大量に含んで）重厚な雲を運び、われら（アッラーのこと）はそれを不毛の大地に降らせる。それからそれでもって水を降らせると、われらはそれでもってあらゆる果実の実を出させる。このようにしてわれらは、死んだ者たちをも（地面から）引き出すのである。あなた方が熟慮するように（われらはこれらの喩えを提示するのである）。**﴾（クルアーン 7：

57）

2－アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“角笛への吹きこみの一吹き目と二吹き目との間隔は、40 である。”」（人々はアブー・フライラに）言いました：“アブー・フライラよ、40 日ということですか？”（アブー・フライラは）言いました：“いや。”（人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 ヶ月ですか？” （アブー・フライラは）言いました：：“いいえ。” （人々はアブー・フライラに）言いました：“それでは 40 年ですか？” （アブー・フライラは）言いました：“いいえ。” （アブー・フライラは）言いました：「（ここからまた預言者の言葉）それからアッラーは天から水を下され、（人々は）芽が吹き出るかのごとく湧き出てくる。そして人間は一片の骨を除いて消滅してしまうのだが、それというのは脊椎の最下部である。被造物はそこから創られ、そして審判の日はそこから蘇るのだ。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[4]）

● **最初に墓から蘇される者：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“私は審判の日、アーダム（アダム）の子らの長である。そして私は最初にその墓が（呼び起こされるために）裂かれる者であり、また最初のとりなし手でもあれば最初にとりなしが与えられる者でもある。”」（ムスリムの伝承[5]）

● **審判の日に蘇される者：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴾**言え、「以前の者も後世の者も全て、その定められた日の定められた時に（蘇されるのだ）。」**﴿（クルアーン 56：49－50）

2－至高のアッラーはこう仰られました：﴾**天地にある全てのものは、最も慈悲深いお方の御許にそのしもべとしてへりくだってまかり出る。（アッラーは）彼らの数をご存知であられ、その 1 人 1 人を数え上げられる。その全ての者は審判の日、各自 1 人でかれの御許へまかり出るのだ。**﴿（クルアーン 19：93－95）

3－至高のアッラーはこう仰られました：﴾**そしてその日われら（アッラーのこと）の山々を動き回らせ、そしてあなたは大地（に秘められた全てのものが）明らかになるのを見るであろう。そしてわれらは彼らを召集し、誰 1 人としてそれを免れる者はいない。**﴿（クルアーン 18：47）

---

[4] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4935）、サヒーフ・ムスリム（2955）。文章はムスリムのもの。
[5] サヒーフ・ムスリム（2278）。

● **召集の地の光景：**

1－至高のアッラーはこう仰られました：﴾**その日大地はそれではない他の大地と、そして諸天はそれではない他の諸天と取って代わられる。そして（しもべたちは）唯一で全てを制されるアッラーの御許へと、（姿形もその秘めていたものも露わに、墓の中から）まかり出てゆくのだ。**﴿（クルアーン 14：48）

2－サハル・ブン・サアド（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：“審判の日、人々はまるで一片の上等なパン切れのような白亜の大地に召集される。そこでは誰も（住居などの）何の痕跡も見出すことがない。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[6]）

● **審判の日、被造物が召集される光景：**

1－アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「私はアッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）がこう言うのを聞きました：“審判の日、人々は靴も衣服もつけておらず、割礼も受けていない状態で召集される。”私は言いました：“アッラーの使徒よ、男女一緒にですか？彼らは互いに眺め合うのではないですか？”（彼は）言いました：“アーイシャよ、事はそんなことより重大であり、人々は互いに眺め合っている場合ではないのだ。”」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[7]）

2－信仰者たちは誉れ高い一団として召集されます。崇高なるアッラーはこう仰られました：﴾**その日われら（アッラーのこと）は（アッラーのお怒りと懲罰を招くような事柄から）身を控える者たちを、（誉れ高い）使節として最も慈悲深いお方の御許へと召集する。**﴿（クルアーン 19：85）

3－そして信仰者は顔を下に足を上にした逆様の状態で、盲目かつ聾唖、喉をからからに乾かし、眼を（余りの恐怖から）蒼くした状態で召集されます。そして最初の者は最後の者がやってくるまで拘留され、1つの集団としていっぺんに地獄へと連れ行かれます。

① 至高のアッラーはこう仰られました：﴾**そして審判の日、われら（アッラーのこと）は彼ら（不信仰者たち）を逆様に、盲目で聾唖の状態で召集する。彼らの行き着く先は地獄の業火であり、それ（炎）は小康してはわれらが更にまた盛り返すのだ。それこそは、彼らがわれらのみしるしを信じなかったことに対する彼らの報いなのである。**﴿（クルアーン 17：97－98）

[6] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6521）、サヒーフ・ムスリム（2790）。文章はムスリムのもの。
[7] サヒーフ・アル＝ブハーリー（6527）、サヒーフ・ムスリム（2859）。文章はムスリムのもの。

② 至高のアッラーはこう仰られました：﴾**そしてわれら（アッラーのこと）は、罪深い者たちを喉がからからに渇いた状態で地獄の業火へと追いやるのだ。**﴿（クルアーン 19：86）

③ 至高のアッラーはこう仰られました：﴾**そしてその日角笛が吹き鳴らされ、われら（アッラーのこと）はその日罪深い者たちを眼が蒼い状態で召集する。**﴿（クルアーン 20：102）

④ 至高のアッラーはこう仰られました：﴾**そしてその日、アッラーの敵たちは地獄に召集される。彼らの内の最初の者は最後の者がやって来るまで、拘留される。**﴿（クルアーン 41：19）

⑤ 至高のアッラーはこう仰られました：﴾**（アッラーは天使たちに言う：）「罪を犯していた者たちとその配偶者たち、そして彼らがアッラーを差し置いて崇めていたものたちを召集せよ。そして彼らを地獄の業火の道へと連れてゆくのだ。」**﴿（クルアーン 37：22－23）

⑥ アナス（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、ある男が言いました：「アッラーの使徒よ。審判の日、不信仰者たちはいかに逆様の状態で召集されるのですか？」預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は言いました：「現世で人を 2 本の足によって歩かせられたお方は、審判の日に彼を顔でもって歩かせられるのが可能ではないのか？」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承[8]）

4－アッラーは審判の日、乗り物用の動物や家畜、野獣や鳥類も召集されます。そして動物同士の間で正義の報復がなされます。例えば角のある羊に角で刺された角なしの羊は、その相手に報復します。そして動物間の報復が終わると、アッラーはそれらにこう仰られます：「砂となるのだ。」

至高のアッラーはこう仰られました：﴾**地上を歩むありとあらゆるもの、そして天を 2 枚の羽でもって羽ばたくもの全ては、あなた方と同様の（われらが創造し糧を与えるところの）共同体なのである。護られた（運命が全て記された）碑版において、われらは何の抜かりもないのだ。それから（それらのもの全ては）その主の御許へと召集される。**﴿（クルアーン 6：38）

---

[8] サヒーフ・アル＝ブハーリー（4760）、サヒーフ・ムスリム（2806）。文章はムスリムのもの。